

授業科目区分	授業科目名	授業方法	単位	時間	関連の深い授業科目
専門	臨床柔道整復学 3	講義	4	80	基礎/臨床柔道整復学 柔道整復実技
学科・学年	担当教員名	科目関連 実務経歴	実務経歴・分野・授業科目との関連等		
柔道整復学科 2年	鈴木 康仁	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	接骨院、整形外科医院 勤務		
授 業 目 標 *詳細な目標は、授業の冒頭で提示					
1年生で修得した「解剖学」「基礎柔道整復学」の知識を活用し、外傷の理解につなげていくことにより、学問における相互理解の重要性を認識するとともに、学生各自の学習方法構築や学習効果の向上を目標とする。					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
下肢の骨折(骨盤骨・大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨・足根骨・足指骨)について学びます。将来の臨床現場において「外傷の評価」を行う際は、教科書で勉強した基礎知識が元となります。蓄積された知識量(メモリ)が多ければ多いほど、自らが行う「外傷に対する評価」の正当性・確実性・妥当性が高くなります。科目を担当する教員の臨床経験(整形外科・接骨院)を踏まえ、教科書と臨床がリンクするように学習を進めて行きますが、まずは教科書が伝えたいことを一言一句理解できるようになることから始め、将来様々な医学書を読むことのできる土台も作りましょう。					
教科書・参考書					
教科書：公益社団法人全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編(改訂第7版)」 教科書：公益社団法人全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編(改訂第2版)」 参考書：医学書院「プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動器系」					
受講時留意点、その他					
<p>【 全科目受講時共通事項 】※詳細は学生便覧受講における遵守事項参照</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●病気その他止むを得ない事由以外での欠席はしないこと。</li> <li>●授業開始5分前には所定教室で待機し、指定された席で授業を受講すること。</li> <li>●授業中は私語、および授業内容に関係のない行為は自粛すること。</li> <li>●授業中の電子機器の使用は禁止する。但し、担当教員から許可を得た場合はこの限りではない。</li> <li>●当番は授業前後の準備、整理を行うこと。教室、実習室の整理整頓、採光、換気、節電に努めること。</li> </ul> <p>※注意 授業開始時間後の入室は職員室にて「授業開始後入室における聴講申請書」を記入し、記入した用紙を担当講師に手渡して下さい。出席簿は「欠席」扱いですが、授業の聴講は許可します。 (公共交通機関遅延により遅延証明書がある場合のみ出席とみなします)</p> <p>【 受講科目受講時留意点 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●実技を行う時は白衣、実習靴を用意して下さい。(事前に通知します。)</li> <li>●携帯電話は授業開始の挨拶前に鞆の中に入れて下さい。(机の中に入れていた場合は注意します。)</li> </ul>					
成績評価方法					
評価方法	評価割合 (%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	80～100	・原則、定期試験を2回/年実施します。試験の最高評価点は小テスト・課題の提出等の加点により80～100の間で変更することがあります。(※最高点を変更する場合は試験範囲発表までに授業内で告知します。)			
その他	0～20	・各単元終了後に授業内小テストを実施します。小テストの成績評価により各定期試験に対する10点分の加点をすることがあります。 ・指定された提出物の提出により各定期試験に対する10点分の加点をすることがあります。			
(合計)	100				

回数	開講 予定日	テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料	授業日誌	開講日	担当教員 (備考)
1		◆骨盤部の損傷 解剖と機能		/	
2		◆骨盤骨骨折(総論) 骨盤骨単独骨折 (腸骨翼単独・恥骨単独骨折)  【学習ポイント】 単独骨折と輪骨折それぞれの定義を 理解する。		/	
3		◆骨盤骨単独骨折 (坐骨単独・仙骨単独・尾骨単独骨折)  【学習ポイント】 単独骨折の分類と骨折の 立体的イメージを作る。		/	
4		◆骨盤骨単独骨折(裂離骨折) 腸骨翼・上前腸骨棘・下前腸骨棘・坐骨結節  【学習ポイント】 裂離骨折の機序・作用筋・転位を関連付ける。		/	
5		◆骨盤骨輪骨折 (輪骨折/垂直重複骨折:マルゲーニュー骨折)  【学習ポイント】 輪骨折の分類と骨折の立体的イメージを作る。 垂直重複骨折の定義を実際の骨盤をイメージ しながら口頭で説明できるようになる。		/	
6		◆股関節部の損傷 解剖と機能		/	
7		◆大腿骨骨折(総論) ◆大腿骨近位端部骨折(骨頭骨折)  【学習ポイント】 大腿骨の解剖学的理解から骨折部位を 想定できるようになる。		/	
8		◆大腿骨近位端部骨折 (頸部骨折)  【学習ポイント】 発生機序から骨折型別に症状を 理解できるようになる。		/	
9		◆大腿骨近位端部骨折 (転子部骨折、転子下骨折)  【学習ポイント】 関節包外に発生する骨折の 種類と部位による症状の違いを考える。		/	
10		◆大腿部の損傷 解剖と機能		/	

回数	開講 予定日	テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料	授業日誌	開講日	担当教員 (備考)
11		◆大腿骨骨幹部骨折 (近位1/3部骨折)  【学習ポイント】 骨折部位と運動器解剖の理解から なぜその方向に転位するのかを考える。		/	
12		◆大腿骨骨幹部骨折 (中央1/3部骨折、遠位1/3部骨折)  【学習ポイント】 骨折部位と運動器解剖の理解から なぜその方向に転位するのかを考える。		/	
13		◆膝関節部の損傷 解剖と機能		/	
14		◆大腿骨遠位端部骨折 (顆上骨折・大腿骨遠位骨端線離開)  【学習ポイント】 X線画像から骨折の発生機序を 導き出すことができるようになる。		/	
15		◆大腿骨遠位端部骨折 (顆部骨折・内側側副靭帯付着部裂離骨折)  【学習ポイント】 骨折部位から発生機序を導き出すことが できるようになる。		/	
16		◆下腿骨近位端部骨折 (脛骨顆部骨折)  【学習ポイント】 骨折部位から発生機序を導き出すことが できるようになる。		/	
17		◆下腿骨近位端部骨折 (脛骨顆間隆起骨折)  【学習ポイント】 メイヤーズ&マッキーバー分類と 損傷の程度を理解する。		/	
18		◆下腿骨近位端部骨折 (粗面骨折・腓骨頭単独骨折)  【学習ポイント】 ワトソン・ジョーンズ分類と 損傷の程度を理解する。 鑑別疾患キーワード:オスグッド・シュラッター病		/	
19		◆膝蓋骨骨折  【学習ポイント】 損傷程度の違いにより発生する症状が異なる ことを解剖学的観点から理解する。 臨床上鑑別を要する疾患について理解する。 鑑別疾患キーワード:分裂膝蓋骨		/	
前期試験					
20		◆下腿部の損傷 解剖と機能		/	

回数	開講 予定日	テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料	授業日誌	開講日	担当教員 (備考)
21		◆下腿骨骨幹部骨折 (脛骨単独および脛腓両骨骨折)  【学習ポイント】 好発年齢から単独骨折・両骨骨折の 損傷程度を理解する。 解剖学的特徴から後遺症・合併症を考える。		/	
22		◆下腿骨骨幹部骨折 (腓骨単独骨折・下腿骨疲労骨折)  【学習ポイント】 疲労骨折の好発部位をその発生機序の 違いから理解する。		/	
23		◆足関節部の損傷 解剖と機能		/	
24		◆下腿骨遠位端部骨折および 足関節脱臼骨折(総論)  【学習ポイント】 足関節脱臼骨折における 様々な分類を理解する。		/	
25		◆果部骨折(1) (外転型・内転型・軸圧型)  【学習ポイント】 受傷時の下腿と距骨の動きから 損傷の順序と部位を理解する。		/	
26		◆果部骨折(2) (外転型・内転型・軸圧型)  【学習ポイント】 受傷時の下腿と距骨の動きから 損傷の順序と部位を理解する。		/	
27		◆足・足指骨骨折(総論)  【学習ポイント】 足・足指の機能解剖を学ぶことで 骨折部位を考える。		/	
28		◆距骨骨折(頸部骨折)  【学習ポイント】 頸部骨折の発生機序から整復・固定法を 導き出すことができる。		/	
29		◆距骨骨折(体部骨折・後突起骨折)  【学習ポイント】 体部・後突起骨折の発生機序から 整復・固定法を導き出すことができる。		/	
30		◆踵骨骨折(隆起骨折・水平骨折)  【学習ポイント】 踵骨の解剖学的理解から骨折の部位を 考える。		/	

回数	開講 予定日	テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料	授業日誌	開講日	担当教員 (備考)
31		◆踵骨骨折 (載距突起骨折・前方突起骨折)  【学習ポイント】 載距突起の部位と前方突起の骨折に 関与する靭帯を理解する。		/	
32		◆踵骨骨折 (踵骨体部骨折)  【学習ポイント】 関節内骨折と関節外骨折の理解と その予後の違いを理解する。		/	
33		◆足・趾部の損傷 解剖と機能		/	
34		◆足根骨骨折 (舟状骨骨折)  【学習ポイント】 足根骨における舟状骨の位置と役割から 骨折の発生を考える。		/	
35		◆足根骨骨折 (立方骨骨折・楔状骨骨折)  【学習ポイント】 立方骨の位置から骨折の発生を考える。 楔状骨骨折の発生機序から合併症を考える。		/	
36		◆中足骨骨折 (骨幹部骨折)  【学習ポイント】 発生機序による骨折の見逃しポイントと 臨床上遭遇する疲労骨折を理解する。		/	
37		◆中足骨骨折 (基部骨折・疲労骨折)  【学習ポイント】 発生機序による骨折の見逃しポイントと 臨床上遭遇する疲労骨折を理解する。		/	
後期試験					
38		◆趾骨骨折  【学習ポイント】 解剖学的位置関係より足指骨 (基節骨・中節骨・末節骨) 骨折の好発部位を理解する。		/	
39		下肢骨折の総復習 (1)		/	
40		下肢骨折の総復習 (2)		/	